

高病原性鳥インフルエンザ疫学調査チーム第1回検討会の概要  
(平成26年4月23日開催)

1 検討会の目的

4月13日に発生した熊本県における高病原性鳥インフルエンザについて、発生時の飼養衛生管理の状況、野鳥の調査、人・車両・物の動き等の疫学調査結果に基づき、今回の発生事例について、感染経路の究明に係る検討を行った。

2 感染時期

死亡鶏の発見状況、他の鶏舎の状況から、感染初期段階であると考えられた。

3 発生農場及びその周辺環境について（4月13日の現地調査概要）

(1) 発生農場について

鶏舎周辺は石灰による消毒が行われていた。鶏舎壁面の金網の網目が比較的大きいこと（5cm程度）等が確認されたが、防鳥ネットの使用等により野鳥が入らないように工夫がされていた。鶏舎入り口の金網の扉では、損傷、隙間等が認められたが、この金網の扉は、気温が高く換気が必要な際に使用され、それ以外では、金属製の引き戸が閉められている。

(2) 発生農場の周辺環境について

発生農場は、山間部に位置し、農場周囲は、雑木林や竹林に囲まれている。敷地内及び敷地から約100m離れた場所に池があり、調査時には、水鳥は特に認められなかったが、小鳥の鳴き声が聞かれた。

4 発生地周辺における野鳥の現地調査について

環境省により、野鳥の生息状況の調査を実施。61種類の野鳥が確認されたが、死亡個体、衰弱個体等の異常は認められなかった。

5 感染源及び感染経路について

現地調査の結果や韓国での発生状況に加え、死亡鶏から分離されたウイルスの全ゲノム配列を分析した結果、韓国で分離されたウイルスと極めて近縁であることが確認されたことから、韓国由来である可能性が高いと考えられた。一方で、この時期に韓国から直接飛来する渡り鳥はほとんど見られないとの情報もあることから、鶏舎への侵入経路も含め、引き続き検討することとなった。

6 今後の検討

感染源及び感染経路の究明のため、引き続き、環境中のウイルス分離、ウイルスの性状等の情報を分析し、これらの結果を踏まえ、報告書を取りまとめることとされた。